

# ブルーカーボンとは

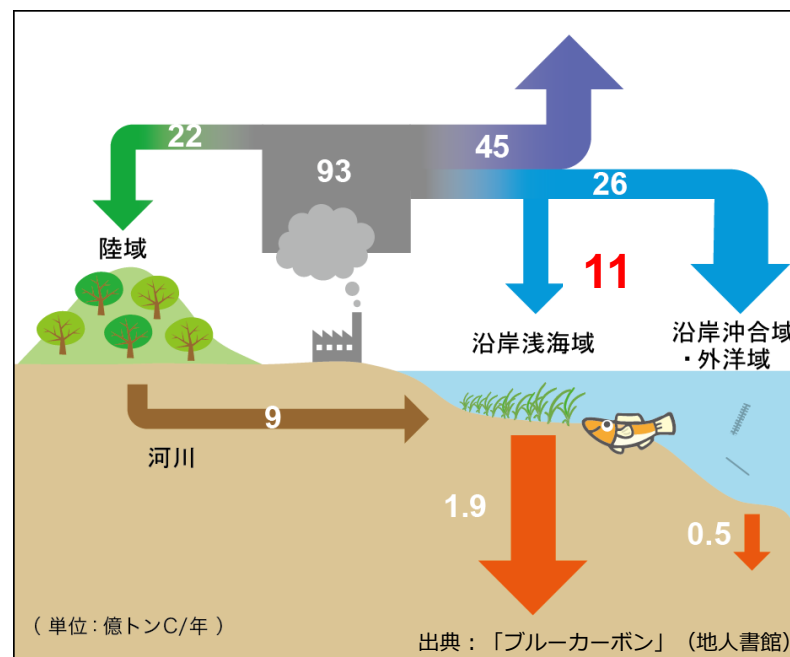
- ◆ 2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、**海洋生態系に取り込まれた（captured）炭素が「ブルーカーボン」と命名**され、吸収源対策の新しい選択肢として提示
- ◆ 四方を海に囲まれた日本にとって、沿岸域の吸収源としてのポテンシャルは大きい。ブルーカーボンの活用にあたっては、その評価方法や技術開発の確立が重要

国連環境計画（UNEP）の報告書  
「ブルーカーボン」



海表面の0.2%程度にあたる沿岸浅海域では、炭素が1.9億t-C/年（地球全体の80%近く）の速さで海底に貯留

炭素循環のイメージ



排出された二酸化炭素のうち、一部が陸域（22億t-C/年）や海洋（26億t-C/年）に吸収

# ブルーカーボン生態系（海草藻場、海藻藻場）

**「藻場」** 大型藻類や海草が、濃密で広大な群落を形成している場所  
 （環境省自然環境保全基礎調査では、「面積1 ha以上、水深20 m以浅」の群落）

## 「海草（うみくさ）藻場」

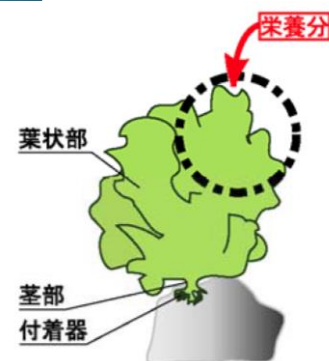
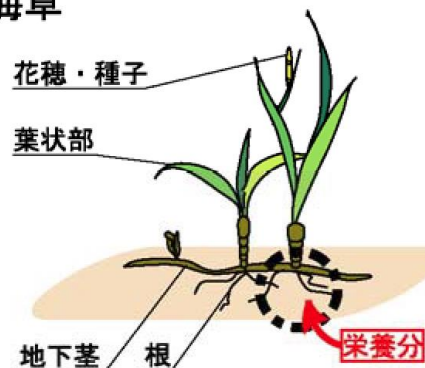
- ◆ 主に温帯～熱帯の静穏な砂浜や干潟の沖合の潮下帯に分布
- ◆ 根・茎・葉が分かれている維管束植物（種子植物）。砂や泥などの堆積物中に根を張って固定
- ◆ 代表的な海草：アマモ、コアマモ、スガモ

## 「海藻（うみも）藻場」

- ◆ 主に寒帯～沿岸域の潮間帯から水深数十mまでの岩礁海岸に多く分布
- ◆ 根・茎・葉の区別がなく、岩などに固着
- ◆ 代表的な海藻  
 緑藻・・・アオサ  
 褐藻・・・コンブ、ワカメ  
 紅藻・・・テングサ等



かいそう  
海草



# ブルーカーボン生態系(干潟、マングローブ)

## 「干潟」

- ◆ 海岸部に砂や泥が堆積し勾配がゆるやかな潮間帯の地形。水没～干出を繰り返す
- ◆ 環境省の定義では「干出幅100 m, 干出面積1 ha, 移動しやすい基質(砂、礫、砂泥、泥)



上：松島湾（宮城県），下：谷津干潟（千葉県）

## 「マングローブ」

- ◆ 熱帯、亜熱帯の河川水と海水が混じりあう汽水水域で砂～泥質の環境に分布。国内では鹿児島以南の海岸に分布
- ◆ 代表的なマングローブ植物：  
オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ



西表島



メヒルギ群落

アマモ場再生ガイドブック（平成20年3月、三重県農水商工部水産基盤室）  
日本の自然（環境省）  
「鹿児島&沖縄マングローブ探検」ウェブサイト



# ブルーカーボンのメカニズム

